

小川一乗（大谷大学学長）先生をお迎えして

白道会大会

満堂の参詣

ゼロに目覚めよと呼びかける本願

去る八月二十三日～二十五日まで、蔵本通支坊で恒例の白道会大会が開催され、今年は大谷大学学長の小川一乗先生にお願いしました。多忙な現役学長さんにも関わらず、快くお越しくださいました。

本来はゼロ（空ということ）であることに目覚めよと呼びかけてくださっているのが阿弥陀さまです」とお話くださいました。

公開講演会

小川先生は、脳死を前提とした臓器移植の問題にも積極的に発言しておられ、法座では「人道」に対する「仏道」という視点から臓器移植の問題点を指摘くださいました。また、ご専門が「真宗学」ではなく「仏教学」ということから、仏教の原理、お釈迦さまの教えによつて分かりやすく親鸞さまの教えを説いてくださいました。妹さんの遺された詩、

死に向かつて生きていくのではない
今をもらって生きていくのだ
今ゼロであつて当然の私
今 生きていく
（鈴木章子）

を紹介しながら、「人生は引き算ではなく足し算（縁起ということ）、

今年、従来の法座形式に加え公開講演会を企画しました。「西教寺の中でココロをやつとつてもつまるか（やつていても意味ないぞ）、もっと社会に開かれた会にせんにやあ」「若い者が参りやすい形式に」というご門徒のご意見から、全席椅子席にし、チケットを販売（お参りしやすいように五百円にしました）して、普段ご縁のない人も誘つてくださいと呼びかけました。また、他寺院にも呼びかけ、「社会に開かれた会に」ということで新聞にも紹介してもらいました。おかげで若年層や働き盛りの世代も足を運んでくださいました。さらに、遠くは関西、県内でも山県郡などからも泊りがけでお聴聞に來られ、外陣は満堂、余間（阿弥陀さまをご安置している内陣の両脇の部屋）にまで人があふれました。



講演会は、「いのちは平等ー仏教の原点ー」というテーマでお話を頂戴しました。「いのち」について、科学などのいろいろな見方を紹介しながら、仏教はどうみるのか。現代社会でいのちがみえづらくなつていくのは、死を抜きにして考えるからだ」と指摘。

また、お釈迦さまが示された生老病死の四苦のうち「生苦」とは「生きる苦しみ」という意味ではなく「生まれる苦しみ」であり「生まれるによる差別」を意味している、お釈迦さまは、生まれによる苦しむ、つまり「輪廻」を否定し、生きとし

いけるもののいのちすべては無条件で平等であるということ。「縁起説」によつて説かれた方。「縁起」とは、すべてのものは無量無数の縁によつて、ただ今の瞬間をいただいているということであり、いのちはつながっている、「いのちの連帯」のことだと説明され、ご縁をいただいで生きていくのではなく、縁が私となっている、お念仏を通せばみんないたるべきものと分かる、「年金を子供に預けてみなさい、見えなかつた世界が見えてくるよ」とお話下さいました。

御示談

御示談では活発にたくさん質問が出されました。参詣のある女性からは、小川先生が紹介されたアイドルグループS.M.A.Pの歌で、私たちは「ナンバーワン」を目指す必要のない「オンリーワン」だということをお聞きされ、大事なことだと思つて家に帰つて娘はどう思っているかを尋ねてみた、また「ただ今のこころどう生きるかが大切」ということにお気つかせてもらつて救われました、など、喜びの声も聞かれました。